

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月6日
【四半期会計期間】	第8期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日）
【会社名】	田辺三菱製薬株式会社
【英訳名】	Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 三津家 正之
【本店の所在の場所】	大阪市中央区北浜二丁目6番18号
【電話番号】	(06)6205-5085
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理財務部長 田原 永三
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区北浜二丁目6番18号
【電話番号】	(06)6205-5085
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理財務部長 田原 永三
【縦覧に供する場所】	田辺三菱製薬株式会社 東京本社 (東京都中央区日本橋小網町17番10号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第7期 第3四半期 連結累計期間	第8期 第3四半期 連結累計期間	第7期
会計期間		自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高	(百万円)	323,210	319,777	412,675
経常利益	(百万円)	57,781	64,088	61,873
四半期(当期)純利益	(百万円)	43,851	48,294	45,393
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	47,710	52,298	49,115
純資産額	(百万円)	784,734	800,509	777,837
総資産額	(百万円)	906,784	911,691	886,476
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	78.17	86.09	80.92
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	85.2	86.5	86.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	46,094	30,907	69,896
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	24,161	15,348	24,344
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	21,403	22,383	21,098
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	61,519	80,389	84,957

回次		第7期 第3四半期連結 会計期間	第8期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自平成25年10月1日 至平成25年12月31日	自平成26年10月1日 至平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	27.29	28.12

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、主要な関係会社の異動は次のとおりであります。

<医薬品事業>

当社の連結子会社であった株式会社ベネシスは、当社が平成26年10月1日付で吸収合併し、消滅したことにより当社の連結子会社ではなくなりました。

また、当社は、当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった三菱製薬(広州)有限公司の全株式を売却したことにより、同社を連結の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、以下の契約を締結しております。

田辺三菱製薬工場株式会社鹿島工場の譲渡に関する譲渡基本契約等

当社は、平成26年6月30日付で沢井製薬株式会社（以下「沢井製薬」）と締結した基本合意書ならびに同日付で三菱化学株式会社（以下「三菱化学」）と締結した覚書に基づき、当社の連結子会社である田辺三菱製薬工場株式会社（以下「田辺三菱製薬工場」）鹿島工場の沢井製薬への譲渡に関する契約類を、平成26年11月28日付で締結いたしました。締結した主な契約は以下のとおりです。

- （イ）当社、沢井製薬および三菱化学の間の譲渡基本契約
- （ロ）田辺三菱製薬工場および沢井製薬の間の吸収分割契約
- （ハ）当社および沢井製薬の間の資産譲渡契約

（1）譲渡の理由

当社は、平成28年3月期を最終年度とする「中期経営計画11-15 ~New Value Creation」の戦略課題の一つである「事業・構造改革の加速化」として、グローバルレベルの新薬供給体制の整備と環境変化に強い柔軟で効率的な生産体制への転換を図ることを目的に、国内製造拠点の再編を推進しており、その一環として、鹿島工場を譲渡することといたしました。

（2）譲渡の方法

平成27年4月1日付で、当社の連結子会社である田辺三菱製薬工場は、会社分割（吸収分割）により鹿島工場に係る医薬品製造事業を沢井製薬に譲渡します。

（3）その他事項

鹿島工場の従業員は本人の同意のもと沢井製薬へ転籍する予定であり、同社にて引き続き雇用が継続されます。また、鹿島工場譲渡後も引き続き当社製品の製造を沢井製薬に委託します。

（4）鹿島工場の概要

所在地	茨城県神栖市砂山14番地1
従業員数	242名（平成26年3月31日現在）
生産実績	錠剤 約2.3億錠、散・顆粒 約33トン、注射剤 約170万本等（平成26年3月期）

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日～12月31日）の連結業績は以下のとおりとなりました。

（単位：百万円）

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減	増減率
売上高	323,210	319,777	3,433	1.1%
売上原価	132,971	128,025	4,946	3.7%
売上原価率	41.1%	40.0%		
売上総利益	190,239	191,752	+1,513	+0.8%
販売費及び 一般管理費	134,713	128,164	6,549	4.9%
営業利益	55,526	63,588	+8,062	+14.5%
営業外損益	2,255	500	1,755	
経常利益	57,781	64,088	+6,307	+10.9%
特別損益	10,036	5,788	4,248	
四半期純利益	43,851	48,294	+4,443	+10.1%

売上高

売上高は前年同期比 1.1%、34億円減収の3,197億円となりました。

（単位：百万円）

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減	増減率
医薬品事業	322,279	319,443	2,836	0.9%
国内医療用医薬品	271,512	252,003	19,509	7.2%
海外医療用医薬品	16,344	16,793	+449	+2.7%
一般用医薬品	3,521	3,180	341	9.7%
医薬品その他	30,902	47,467	+16,565	+53.6%
その他	931	334	597	64.1%

医薬品事業は、前年同期比 0.9%、28億円減収の3,194億円となりました。

- ・国内医療用医薬品は、昨年4月の薬価改定やジェネリック医薬品の影響拡大などにより、前年同期比7.2%減収の2,520億円となりました。
- ・医薬品その他は、ノバルティス社に導出した多発性硬化症治療剤「ジレニア」に加えて、ヤンセンファーマシューティカルズ社に導出した2型糖尿病治療剤「インヴォカナ」および同剤とメトホルミン（即放性）の合剤に係るロイヤリティ収入等の増加により、前年同期比53.6%増収の474億円となりました。

営業利益

営業利益は前年同期比+14.5%、80億円増益の635億円となりました。

- ・薬価改定やジェネリック医薬品の影響拡大により減収となったものの、ロイヤリティ収入等の増加などにより、売上総利益は前年同期比15億円増益の1,917億円となりました。また、売上原価率は40.0%となり、前年同期比1.1ポイント低下しております。
- ・販売費及び一般管理費は、研究開発費が減少したことに加え、退職給付費用の減少により人件費が減少したことなどから、前年同期比65億円減少し、1,281億円となりました。

経常利益・四半期純利益

経常利益は前年同期比+10.9%、63億円増益の640億円、四半期純利益は前年同期比+10.1%、44億円増益の482億円となりました。

- ・固定資産売却益、投資有価証券売却益など135億円の特別利益が発生しました。なお、前年同期には、仲裁裁定に伴う特別利益などで119億円の特別利益を計上しています。
- ・中期経営計画の重点課題である「事業・構造改革の加速化」への取り組みに伴う構造改革費用など77億円の特別損失が発生しました。

四半期包括利益

少数株主損益調整前四半期純利益が471億円、為替換算調整勘定などによるその他の包括利益が51億円発生し、四半期包括利益は522億円となりました。なお、親会社株主に係る四半期包括利益は532億円であります。

(2) 財政状態の状況

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (平成26年3月末)	当第3四半期 連結会計期間末 (平成26年12月末)	増減
流動資産	540,492	590,872	+50,380
固定資産	345,984	320,819	25,165
資産合計	886,476	911,691	+25,215
負債	108,639	111,182	+2,543
純資産	777,837	800,509	+22,672
負債純資産合計	886,476	911,691	+25,215

当第3四半期連結会計期間末における総資産は9,116億円となり、前期末比252億円増加しました。前期末と比較した貸借対照表上の主な変動要因は以下のとおりです。

- ・流動資産は、前期末比503億円増加し、5,908億円となりました。受取手形及び売掛金、有価証券などが増加しました。
- ・固定資産は、前期末比251億円減少し、3,208億円となりました。無形固定資産や改正退職給付会計基準等の適用に伴う期首調整により退職給付に係る資産などが減少しました。
- ・負債は、前期末比25億円増加し、1,111億円となりました。未払消費税などのその他流動負債が増加しました。
- ・純資産は、前期末比226億円増加し、8,005億円となりました。配当金支払 224億円、改正退職給付会計基準等の適用に伴う期首調整 83億円があったものの、四半期純利益を482億円計上したことにより利益剰余金が175億円増加しました。また、その他の包括利益累計額が49億円増加しています。自己資本比率は、86.5%（前期末86.4%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減
営業キャッシュ・フロー	46,094	30,907	15,187
投資キャッシュ・フロー	24,161	15,348	+8,813
財務キャッシュ・フロー	21,403	22,383	980
現金・現金同等物増減額	2,774	4,568	7,342
現金・現金同等物期首残高	58,745	84,957	+26,212
現金・現金同等物期末残高	61,519	80,389	+18,870

当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは45億円の支出となり、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は803億円となりました。

- ・営業活動によるキャッシュ・フローは309億円の収入となりました。主な収入要因は、税金等調整前四半期純利益698億円などがあり、主な支出要因は、売上債権の増加額296億円、法人税等の支払額198億円などがありました。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産や関係会社株式の売却などによる収入要因があったものの、有価証券の取得、預け金の預入などの支出要因が上回り、153億円の支出となりました。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払いなどにより223億円の支出となりました。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当社は、連結子会社である田辺三菱製薬工場が保有する鹿島工場を平成27年4月1日付で沢井製薬へ譲渡することについて、平成26年6月30日に両社間で基本合意を行い推進してきましたが、平成26年11月28日に最終的な譲渡基本契約等を締結しました。

当社は、平成29年度末の小野田、吉富工場への2拠点体制化に向けて国内製造拠点の集約および再編を着実に推進することにより、新薬供給体制の整備を進めるとともに、環境変化に強い柔軟で効率的な生産体制を構築してまいります。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費は480億円となり、売上高に対する比率は15.0%となりました。なお、当第3四半期連結累計期間は医薬品事業における研究開発費のみであり、その他の事業における研究開発費はありません。当第3四半期連結累計期間の主な臨床開発活動の進捗状況は、以下のとおりです。

承認取得

- ・平成26年7月、TA-7284（カナグリフロジン、製品名：カナグル）の2型糖尿病について、国内で承認を取得しました。
- ・平成26年9月、「テラピック」のジェノタイプ2型C型慢性肝炎について、国内で承認を取得しました。
- ・平成26年10月、MP-424（テラプレビル）のC型慢性肝炎について、台湾で承認を取得しました。

承認申請

- ・平成26年5月、「タリオン」の小児適応追加について、国内で申請しました。
- ・平成26年10月、「レミケード」の特殊型ベーチェット病、「ラジカット」の筋萎縮性側索硬化症について、国内で申請しました。

臨床試験の開始

- ・平成26年4月、「トリピック」の百日せきジフテリア破傷風感染予防の2期接種について、阪大微生物病研究会と共同でフェーズ3試験を国内で開始しました。
- ・平成26年5月、MT-2301（Hibワクチン）のフェーズ2試験を国内で開始しました。
- ・平成26年8月、季節性インフルエンザワクチンについて、フェーズ2試験を米国・カナダで開始しました。
- ・平成26年9月、MT-2412（テネリグリブチンとカナグリフロジンの合剤 / 2型糖尿病）について、フェーズ3試験を国内で開始しました。

また、「カナグル」について、ヤンセンファーマシューティカルズ社が実施する糖尿病性腎症の国際共同治験に参画しました。

導出品の状況

- ・カナグリフロジンとメトホルミン（即放性）の合剤について、導出先のヤンセンファーマシューティカルズ社が平成26年4月に欧州、平成26年8月に米国において、それぞれ承認を取得しました（欧州製品名：VOKANAMET / 米国製品名：INVOKAMET）。
- ・MP-513（テネリグリブチン）の2型糖尿病について、導出先のハンドク社が平成26年4月に韓国において承認を取得しました。また、同剤とメトホルミン（徐放性）の合剤3規格について、同社が平成26年10月から12月にかけて韓国で申請しました。
- ・MT-4580の透析患者における二次性副甲状腺機能亢進症について、導出先の協和発酵キリン株式会社が平成26年8月に国内において、フェーズ2試験を開始しました。

(6) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第3四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は、次のとおりであります。

新設

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額（百万円）		資金調達方法	着手年月	完了予定年月	完成後の増加能力
				総額	既支払額				
田辺三菱製薬工場(株)	小野田工場 (山口県山陽小野田市)	医薬品	注射剤再編工事	1,780	167	自己資金	平成26年5月	平成28年8月	-

売却等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）					譲渡年月
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
田辺三菱製薬工場(株)	足利工場 (栃木県足利市)	医薬品	製造設備	1,119	889	292 (98.9)	286	2,586	平成26年4月

- (注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。
2 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品および無形固定資産の合計であり、建設仮勘定は含んでおりません。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）					譲渡年月
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
三菱製薬(広州)有限公司	開発区工場 (中華人民共和国広州市)	医薬品	製造設備及び本社	968	1,517	- (-)	323	2,808	平成26年10月

- (注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品および無形固定資産の合計であり、建設仮勘定は含んでおりません。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	当第3四半期連結会計期間末帳簿価額（百万円）					譲渡予定年月
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
田辺三菱製薬工場(株)	鹿島工場 (茨城県神栖市)	医薬品	製造設備	242	329	- (-)	82	653	平成27年4月

- (注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。
2 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品および無形固定資産の合計であり、建設仮勘定は含んでおりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000,000
計	2,000,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成27年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	561,417,916	561,417,916	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	561,417,916	561,417,916	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日	-	561,417,916	-	50,000	-	48,036

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 427,400	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 560,886,100	5,608,861	-
単元未満株式	普通株式 104,416	-	-
発行済株式総数	561,417,916	-	-
総株主の議決権	-	5,608,861	-

（注）「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式12株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合（%）
（自己保有株式） 田辺三菱製薬株式会社	大阪市中央区北浜 二丁目6番18号	427,400	-	427,400	0.08
計	-	427,400	-	427,400	0.08

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

役名	氏名	新職名	旧職名	異動年月日
取締役 常務執行役員	子林 孝司	研究本部長 R D改革室担当	研究本部長	平成26年10月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,187	29,210
受取手形及び売掛金	123,537	153,355
有価証券	106,470	118,640
商品及び製品	70,406	63,699
仕掛品	998	873
原材料及び貯蔵品	22,296	22,159
預け金	172,149	182,620
繰延税金資産	8,153	8,259
その他	9,335	12,104
貸倒引当金	39	47
流動資産合計	540,492	590,872
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	33,398	31,240
機械装置及び運搬具(純額)	16,384	12,042
工具、器具及び備品(純額)	6,017	5,377
土地	38,346	36,077
リース資産(純額)	542	646
建設仮勘定	3,653	6,190
有形固定資産合計	98,340	91,572
無形固定資産		
のれん	96,180	88,055
ソフトウェア	3,891	4,350
その他	33,021	32,048
無形固定資産合計	133,092	124,453
投資その他の資産		
投資有価証券	71,583	69,048
繰延税金資産	677	462
退職給付に係る資産	16,305	7,459
その他	25,989	27,827
貸倒引当金	2	2
投資その他の資産合計	114,552	104,794
固定資産合計	345,984	320,819
資産合計	886,476	911,691

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,986	31,353
短期借入金	1,225	241
1年内返済予定の長期借入金	128	135
未払金	16,773	19,461
未払法人税等	10,161	11,954
賞与引当金	10,169	5,180
その他の引当金	116	711
その他	9,279	18,323
流動負債合計	81,837	87,358
固定負債		
長期借入金	958	963
繰延税金負債	13,356	9,999
HIV訴訟健康管理手当等引当金	1,576	1,576
スモン訴訟健康管理手当等引当金	2,976	2,660
HCV訴訟損失引当金	2,634	2,224
退職給付に係る負債	2,146	2,871
その他	3,156	3,531
固定負債合計	26,802	23,824
負債合計	108,639	111,182
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	451,186	451,186
利益剰余金	266,575	284,117
自己株式	490	492
株主資本合計	767,271	784,811
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,747	9,534
繰延ヘッジ損益	493	99
為替換算調整勘定	2,399	1,292
退職給付に係る調整累計額	8,066	7,239
その他の包括利益累計額合計	1,225	3,686
少数株主持分	11,791	12,012
純資産合計	777,837	800,509
負債純資産合計	886,476	911,691

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	323,210	319,777
売上原価	132,971	128,025
売上総利益	190,239	191,752
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	2,572	2,551
販売促進費	7,467	7,138
給料及び手当	24,938	24,830
賞与引当金繰入額	3,085	2,966
退職給付費用	2,247	979
減価償却費	1,068	1,251
研究開発費	51,381	48,085
のれん償却額	7,868	8,095
その他	34,087	32,269
販売費及び一般管理費合計	134,713	128,164
営業利益	55,526	63,588
営業外収益		
受取利息	1,144	1,187
受取配当金	845	771
持分法による投資利益	602	11
為替差益	1,680	77
その他	1,071	727
営業外収益合計	5,342	2,773
営業外費用		
支払利息	63	142
寄付金	610	846
その他	2,414	1,285
営業外費用合計	3,087	2,273
経常利益	57,781	64,088

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	-	1,119,24
投資有価証券売却益	-	1,069
仲裁裁定に伴う特別利益	2,110,11	-
段階取得に係る差益	3,930	-
関係会社株式売却益	-	4,560
特別利益合計	11,941	13,553
特別損失		
減損損失	5,135	5,965
構造改革費用	-	5,665,62
投資有価証券評価損	463	130
その他	87	108
特別損失合計	1,905	7,765
税金等調整前四半期純利益	67,817	69,876
法人税、住民税及び事業税	20,886	22,101
法人税等調整額	3,032	646
法人税等合計	23,918	22,747
少数株主損益調整前四半期純利益	43,899	47,129
少数株主利益又は少数株主損失()	48	1,165
四半期純利益	43,851	48,294

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	43,899	47,129
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,339	788
繰延ヘッジ損益	635	394
為替換算調整勘定	3,088	3,960
退職給付に係る調整額	-	791
持分法適用会社に対する持分相当額	19	24
その他の包括利益合計	3,811	5,169
四半期包括利益	47,710	52,298
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	47,402	53,205
少数株主に係る四半期包括利益	308	907

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	67,817	69,876
減価償却費	6,661	6,656
減損損失	1,355	965
のれん償却額	7,868	8,095
退職給付引当金の増減額(は減少)	893	-
前払年金費用の増減額(は増加)	1,798	-
HCV訴訟損失引当金の増減額(は減少)	504	410
受取利息及び受取配当金	1,989	1,958
固定資産除売却損益(は益)	88	11,786
構造改革費用	-	6,562
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	-	2,984
仲裁裁定に伴う特別利益	11,011	-
関係会社株式売却損益(は益)	-	560
段階取得に係る差損益(は益)	930	-
投資有価証券売却損益(は益)	-	1,069
投資有価証券評価損益(は益)	463	130
為替差損益(は益)	1,272	225
持分法による投資損益(は益)	602	11
売上債権の増減額(は増加)	16,499	29,621
たな卸資産の増減額(は増加)	1,161	6,286
仕入債務の増減額(は減少)	2,865	2,839
未払金の増減額(は減少)	1,151	1,116
その他	2,262	793
小計	59,789	49,016
利息及び配当金の受取額	2,059	1,908
利息の支払額	69	163
仲裁裁定金の受取額	12,208	-
法人税等の支払額	27,893	19,854
営業活動によるキャッシュ・フロー	46,094	30,907
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	27,250	75,300
有価証券の売却及び償還による収入	48,098	53,011
定期預金の預入による支出	9,040	1,054
定期預金の払戻による収入	3,897	4,753
預け金の預入による支出	10,416	10,471
有形固定資産の取得による支出	9,337	6,468
有形固定資産の売却による収入	98	11,070
無形固定資産の取得による支出	1,525	1,096
投資有価証券の取得による支出	1,252	198
子会社株式の取得による支出	3,459	-
投資有価証券の売却及び償還による収入	4,011	1,297
関係会社株式の売却による収入	-	7,600
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	17,897	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	1,467
その他	89	41
投資活動によるキャッシュ・フロー	24,161	15,348

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	70	973
長期借入れによる収入	433	-
少数株主からの払込みによる収入	581	1,698
配当金の支払額	22,439	22,439
少数株主への配当金の支払額	31	570
その他	17	99
財務活動によるキャッシュ・フロー	21,403	22,383
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,244	2,256
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,774	4,568
現金及び現金同等物の期首残高	58,745	84,957
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 61,519	1 80,389

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、持分法適用関連会社であった株式会社エーピーアイ コーポレーションは、保有株式の売却により関連会社でなくなったため、持分法適用の範囲から除外しております。

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社ベネシスは、当社が平成26年10月1日付で吸収合併し、消滅したことにより当社の連結子会社ではなくなりました。

また、当第3四半期連結会計期間において、当社は、当社の連結子会社であった三菱製薬(広州)有限公司の全株式を売却したことにより、同社を連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)および「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文および退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務および勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について退職給付の見込支払日までの平均期間とする方法から退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務および勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る資産が11,830百万円減少、退職給付に係る負債が1,046百万円増加し、利益剰余金が8,313百万円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ510百万円増加しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 固定資産売却益

主に当社旧日本橋ビル跡地の売却に伴うものであります。

2 仲裁裁定に伴う特別利益

当社は、ヤンセン・バイオテック社(アメリカ)に対し当社が国内で販売する抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤「レミケード」について、開発販売契約に基づく供給価格の改定を求めて国際商業会議所(ICC)に対して仲裁申立を行ってりましたが、2013年8月、供給価格を低減すべきとの仲裁判断に基づき、2008年4月1日以降の購入価格の精算分を含む裁定金12,208百万円を受領いたしました。裁定金の受取額のうち、当連結会計年度の期首在庫に対応する分については売上原価と商品及び製品に、これらを除く裁定金は弁護士に対する成功報酬と相殺の上、特別利益に計上しております。

3 段階取得に係る差益

株式の追加取得によりメディカゴ社を連結子会社としたことに伴うものであります。

4 関係会社株式売却益

非連結子会社であったシミックCMO足利株式会社の株式売却に伴う売却益277百万円および持分法適用関連会社であった株式会社エーピーアイコーポレーションの株式売却に伴う売却益283百万円でありま

5 減損損失

当社グループは原則として事業用資産、賃貸資産、遊休資産の区分にて資産のグルーピングを行っており、事業用資産につきましては資産グループを、賃貸資産および遊休資産については個別資産をグルーピングの最小単位としております。

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

当社グループは、当第3四半期連結累計期間において、1,355百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。減損損失を認識した主要な資産は以下のとおりであります。

場所	用途	種類
当社 吉富地区旧研究所 (福岡県築上郡)	遊休資産	建物及び構築物等
当社 旧四国支店(香川県高松市)	遊休資産	土地、建物及び構築物
当社 旧日本橋ビル(東京都中央区)	遊休資産	建物及び構築物 工具、器具及び備品
当社 旧寝屋川物流センター (大阪府寝屋川市)	遊休資産	土地

内訳

・吉富地区旧研究所(当社)

611百万円(内、建物及び構築物111百万円、撤去費用等500百万円)

当社吉富地区旧研究所は、解体撤去することを意思決定したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。

なお、回収可能価額は使用価値であり、将来キャッシュフローに基づき算定しております。

・旧四国支店(当社)

106百万円(内、土地78百万円、建物及び構築物28百万円)

当社旧四国支店は、売却することとなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。

なお、回収可能価額は正味売却価額であり、売却予定価額に基づき算定しております。

・旧日本橋ビル(当社)

357百万円(内、建物及び構築物229百万円、工具、器具及び備品4百万円、撤去費用等124百万円)

当社旧日本橋ビルは、解体撤去することを意思決定したため、帳簿価額を回収可能価額(備忘価額)まで減額いたしました。

- ・旧寝屋川物流センター（当社）
 198百万円（内、土地198百万円）
 当社旧寝屋川物流センターは、売却することとなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。
 なお、回収可能価額は正味売却価額であり、売却予定価額に基づき算定しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）

当社グループは、当第3四半期連結累計期間において、4,430百万円の減損処理を行いました。そのうち、965百万円を減損損失として、3,465百万円を構造改革費用として特別損失に計上いたしました。減損損失を認識した主要な資産は以下のとおりであります。

場所	用途	種類
当社 戸田寮 (埼玉県戸田市)	遊休資産	土地、建物及び構築物
(株)ベネシス 旧オサダノ寮・社宅 (京都府福知山市)	遊休資産	土地、建物及び構築物
当社 中国支店（広島市中区）	遊休資産	建物及び構築物等
当社 平野町1号ビル（大阪市中央区）	管理および販売業務	土地、建物及び構築物
田辺三菱製薬工場(株) 鹿島工場（茨城県神栖市）	製造設備	機械装置及び運搬具等
当社および田辺三菱製薬工場(株) 鹿島工場（茨城県神栖市）	製造設備等	建物及び構築物 機械装置及び運搬具等

内訳

- ・戸田寮（当社）
 589百万円（内、土地396百万円、建物及び構築物193百万円）
 当社戸田寮は、売却することを意思決定したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。
 なお、回収可能価額は正味売却価額であり、合理的に算定された価額（不動産鑑定評価額等）に基づき算定しております。
- ・旧オサダノ寮・社宅（(株)ベネシス）
 265百万円（内、土地178百万円、建物及び構築物87百万円）
 旧オサダノ寮・社宅は、売却することとなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。
 なお、回収可能価額は正味売却価額であり、売却価額に基づき算定しております。
- ・中国支店（当社）111百万円（内、建物及び構築物110百万円）
 当社中国支店は、移転することを意思決定したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。
 なお、回収可能価額は正味売却価額であり、売却予定価額に基づき算定しております。
- ・平野町1号ビル（当社）1,215百万円（内、土地1,161百万円、建物及び構築物54百万円）
 当連結会計年度において、当社は本社機能の集約・移転を実施しており、平野町1号ビルは当該集約・移転に伴い遊休資産となるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。なお、回収可能価額は正味売却価額であり、合理的に算定された価額（不動産鑑定評価額等）に基づき算定しております。
- ・鹿島工場（田辺三菱製薬工場(株)）274百万円（内、機械装置及び運搬具264百万円）
 不採算事業の整理の決定に伴い、田辺三菱製薬工場(株)の当該事業に関連する製造設備の帳簿価額を回収可能価額である備忘価額まで減額いたしました。
- ・鹿島工場（当社および田辺三菱製薬工場(株)）1,976百万円（内、建物及び構築物1,030百万円、機械装置及び運搬具752百万円）
 鹿島工場は、売却することとなったため、当社および田辺三菱製薬工場(株)の製造設備等の帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。なお、回収可能価額は正味売却価額であり、売却予定価額に基づき算定しております。

なお、当社の平野町1号ビル、当社および田辺三菱製薬工場(株)の鹿島工場の建物・製造設備等の減損損失については、構造改革費用に含めて計上しております。

6 構造改革費用

「中期経営計画11-15 ~New Value Creation」の重点課題である「事業・構造改革の加速化」への取り組みに伴い発生した費用であります。

< 事業再構築 >

・ 不採算事業の整理

連結子会社であった三菱製薬（広州）有限公司の事業撤退に伴う損失

関係会社整理損 1,413 百万円

海外事業の一部中止意思決定を行ったことに関連する損失

製造設備の減損損失 274 百万円

たな卸資産の整理損失 687

< 拠点再編 >

・ 製造拠点等の再編

鹿島工場を売却することに関連する損失

建物・製造設備等の減損損失 1,976 百万円

撤去費用等の見積額 336

転籍加算金 511

・ 本社機能の集約・移転

本社機能の集約・移転に伴い発生する費用

土地、建物及び構築物の減損損失 1,215 百万円

移転費用 150

なお、構造改革費用に含まれる減損損失の内容については、「 5 減損損失」に記載しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
現金及び預金	32,591百万円	29,210百万円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	8,250	1,461
取得日から3ヵ月以内に償還期限が到来する有価証券	16,499	32,000
短期貸付金(流動資産その他)に含まれる現金同等物(注)1	577	640
預け金に含まれる現金同等物(注)2	20,102	20,000
現金及び現金同等物	61,519	80,389

(注)1 CMS(キャッシュ・マネジメント・サービス)であります。

2 寄託期間が3ヶ月以内の預け金(寄託運用)であります。

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

平成25年6月21日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	11,219百万円
(ロ) 1株当たり配当額	20円
(ハ) 基準日	平成25年3月31日
(ニ) 効力発生日	平成25年6月24日
(ホ) 配当の原資	利益剰余金

平成25年10月30日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	11,219百万円
(ロ) 1株当たり配当額	20円
(ハ) 基準日	平成25年9月30日
(ニ) 効力発生日	平成25年12月2日
(ホ) 配当の原資	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

配当金支払額

平成26年6月20日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	11,219百万円
(ロ) 1株当たり配当額	20円
(ハ) 基準日	平成26年3月31日
(ニ) 効力発生日	平成26年6月23日
(ホ) 配当の原資	利益剰余金

平成26年10月29日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	11,219百万円
(ロ) 1株当たり配当額	20円
(ハ) 基準日	平成26年9月30日
(ニ) 効力発生日	平成26年12月1日
(ホ) 配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報
 当社の報告セグメントは「医薬品事業」のみであるため、記載を省略しております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 当社の報告セグメントは「医薬品事業」のみであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報
 当社の報告セグメントは「医薬品事業」のみであるため、記載を省略しております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 当社の報告セグメントは「医薬品事業」のみであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	78円17銭	86円09銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	43,851	48,294
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	43,851	48,294
普通株式の期中平均株式数(千株)	560,992	560,990

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

中間配当

平成26年10月29日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額 11,219百万円

(ロ) 1株当たりの金額 20円

(ハ) 支払請求の効力発生日および支払開始日 平成26年12月1日

(注) 平成26年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月6日

田辺三菱製薬株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小川 佳男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 遠藤 健二 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 栗原 裕幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている田辺三菱製薬株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、田辺三菱製薬株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。